

# 地域の課題解決策を提言

三戸

## 三戸高校生、中学生に探究活動報告会

三戸町の三戸高校(直町年行校長)は5日、生徒たちが本年度取り組んできた地域課題探究の成果報告会を、同町の小中一貫三戸学園三戸小中学校で開いた。数人ずつ12グループに分かれた生徒たちは、地域のにぎわい創出や魅力発信、地域防災など多彩なテーマごとに、高校生ならではの視点で地域の未来像や課題解決策を提言した。

(藤田幸雄)



三戸中生の前で探究成果について発表する三戸高校生

## にぎわい創出、防災などテーマ

取り組んだのは「総合的な探究の時間」を活用した探究プログラム「三戸みらいキャンパス」。地域の現状や課題を踏まえ、住民や関係者への聞き取り、現地調査などを重ねながら、課題の背景や解決の可能性を探った。報告会は、探究活動の取り組みを地元の中学生にも知ってもらおうと、中学校で開いた。

報告会には三戸中1、2年生約120人が参加。高校生たちは各グループで、リンゴの商品開発や三戸城跡の活用、商店街でチャッターアート制作などについて、それぞれの研究の過程や成果などを分かりやすく発表した。中学生からの質問にも丁寧に答えていた。

地域防災をテーマにしたグループは、人口減少が進む中で重要度が増す「共助」に着目。大関菜奈さん(13年)は「高齢者だけでなく、地域全体で助け合うことが必要。子どもの頃から防災を学ぶことで、将来、周囲を支えられる人が増えるのではないかと、若い世代への防災教育の必要性を訴えた。

講評では、青森大学社会学部の櫛引素夫教授が「多様なテーマがあったが、いくつかを組み合わせても面白い。地図や具体的な数値データも取り入れれば提案の説得力が高まる」と助言した。